

令和2年度 学 校 評 価 書

大津市立石山小学校

大津市の6つのキーワード

1. 主体的・対話的で深い学び 2. 道德教育の充実 3. 体力づくり 4. 指導改善(組織的・計画的) 5. 育ちと学びを支える連携 6. 組織的体制の充実

学校目標

「**明朗 健康 自主自立**」

今年度の重点目標

1. 基礎学力を確実に定着させる 2. 人間関係形成力を育成する 3. 運動習慣を育成する 4. ふるさと石山を醸成する

大項目	中項目	小項目	平成30年度		令和元年度		令和2年度		現況	評価	令和2年度 学校運営協議会委員の評価とご意見	
			小項目 平均	中項目 評価	小項目 平均	中項目 評価	小項目 平均	中項目 評価				
主体的・対話的で深い学び	学級・学年づくり	学級目標を設け、支持的風土を育てる学級・学年集団づくりを実践しているか	2.6		2.2		2.6		感染症対策から学級で過ごす時間が中心となる中、個々の居場所として、友だちとの居場所としてより過ごしやすい環境づくりを子どもとともに模索した一年であった。年間を通して、全学級で「ふわふわ言葉」集めを行い、思いやりのある温かい雰囲気学級集団づくりに努めている。毎学期、入賞発表を行い、子どもの意識を高めた。 3年生以上で少人数授業を実施。また、ステップアップ教室の実施や社会福祉協議会の寺子屋とも連携し、基礎学力の向上を図った。また、コミュニケーション力の育成のため、感染症対策を講じながら話し合う場の設定に努めている。	2.6	・4.5月の休校は、特に低学年、1年生の子どもたちには大きな影響があったように感じる。子どもたちと関わった際には、記名するときや会話など、例年よりスムーズにいかないといった面が見られた。 ・学級が子どもたちの安心できる居場所になることが切である。「朝のリラックスタム」を設け、子どもたちがリラックスマインドで一日をスタートできる取り組みがなされた。また、学校内外で何かあったとしてもリセットする時間があるのは素敵である。とても良い取組だと思う。 ・各学年に目標がある。目標を設けることで、子どもたちや教職員がそのことを大切に、授業や生活全てを考えている。 ・コロナ禍のなか、どのようにすればよいかを色々工夫され頼もしく思った。 ・コロナ禍での種々の取り組みに廣心している状況がよくなった。	
		基本的な生活習慣と学習のまきりの定着を図ることができたか	2.3	2.4	2.2	2.2	2.3	2.5				
		心の居場所づくりができていくか	2.3		2.3		2.5					
	基礎・基本の習得	学習習慣や基礎・基本的な学習内容を確実に身に付けさせているか	2.3		2.0		2.1		2.5			
協同する体験・伝え合う喜び・コミュニケーション能力の育成を図る授業改善に努めているか		2.4	2.3	2.2	2.1	2.4	2.3					
家庭学習を習慣化させることで、確かな学力の定着と向上を図れているか		2.3		2.0		2.3						
道德教育の充実	資料の整備、充実と活用	生命を尊重する心やいじめを許さない態度などの道德の実践力を育てる活動の実施に努めているか	2.5		2.3		2.7		2.2	町探検やお店調べ、暮の暮らしなど、地域の方々との積極的な交流をもつような体験学習の実施を控えたスタートとなった。できる形での、地域の人も、自然とのふれあいの機会を模索、設定しふるさと石山の意識を醸成していくよう努めている。道德科の授業参観も中止となったが、感染者に対する差別など、人権意識を高く持つための指導は継続している。いじめ防止対策としては、相手の気持ちを考えること、相手のいやがることをしてはいけないことを発達段階に合わせて繰り返し指導している。	2.4	・オンラインや地域の方等、様々な材料や人材を生かした取り組みがされている。様々な人との出会いや話を通して、豊かな感情体験を積み重ねていく取り組みが大切である。 ・地域の学習が少なくなってきたように思う。 ・全体的に指導力アップをお願いする。 ・コロナの影響で参観が減ることは仕方ないが、その中でもできることを見出し工夫されていると思う。
		道徳科の授業・評価に関する研究や資料の開発・交流を行っているか	2.0	2.2	1.8	2.1	1.8	2.2				
		児童の感性や言葉の力を育む読書の推進が図れたか	2.2		2.1		1.9					
	体験活動(感動体験)	地域資源の教材化や人材活用・外部講師の招聘などによる体験活動の充実が図られているか	2.2		2.2		1.9		2.5			
活動前・中・後の指導の充実に努めたか		2.3	2.2	2.2	2.2	2.2	2.1					
豊かな人間性、自ら学び、自ら考える力の基盤、子どもの成長の糧として役割が果たされているか		2.1		2.1		2.2						
体力づくり	体力づくりの取り組みと工夫	たくましい心と体を育てる魅力ある授業の工夫改善に努めているか	2.4		2.1		2.3		2.2	感染症対策が優先され、運動内容に制約がある中、体育参観や全学的な長距離走の取組を実施した。体育授業でのゲーム形式の運動では、感染症に対して安全な実施方法を検討しながら実施している。距離を保つことや手洗いの徹底について繰り返し指導し、自らの命は自ら守ることができる意識・力の育成に努めている。食育では、給食時間の放送で児童の委員会による活発な活動が行われた。児童のアレルギーや病気については、保護者と密接に連絡を取りながら、職員間で情報を共有し、児童の健康・安全を守る体制づくりを行った。	2.4	・通学時に元氣よく通っていく子どもが増えた。良いことと捉えている。 ・子どもが学校に行くのが楽しくて来なくなった学校生活に代わって、世間が外出を控える状況下で、運動不足につながっていることは学校にも影響がある中、マラソンの取組など工夫されていた。
		進んで自分の体を鍛えようとする環境づくりができたか(体力作りを推進する運動実践)	2.4	2.4	2.1	2.1	2.1	2.2				
		体を動かす気持ちよさを体験させ、進んで体を動かそうとする意欲の育成に努めたか	2.3		2.1		2.2					
	食育・保健・安全指導	食に対する正しい知識や関心の育成が図られているか	2.3		1.9		1.9		2.2			
健康な生活の習慣化を行うことができたか		2.0	2.2	1.9	2.0	2.2	2.2					
平素から学校全体で安全管理、安全教育、健康指導(感染症対策含む)の充実、徹底が図られているか		2.2		2.2		2.4						
(組織的・計画的)	校内的研究	学びの自覚を促し、主体的な学びを生み出す授業改善ができたか	2.4		2.3		2.3		2.3	児童が協働しながら主体的に学びを深める授業を目指し、各学年で研究授業を行った。重視したい話し合い活動は、その必要性・実施の時間、子ども同士の距離・方向などを考慮し設定した。また、教員同士の参観や研究会の持ち方にも変化を余儀なくされたが、主体的に学ばせる展開のあり方について深く研究をすすめることができた。今年度も教科担任制や少人数学習、入り授業を行い、協力的な指導を充実。eラーニングやプログラミング学習の実施、通常授業でのタブレットの活用等ICT活用も進んでいる。今年度は、中止となった行事が多く、子どもへの指導や教材研究の時間の確保が比較的しやすかったためか、働き方改革に係る評価が上がっている。	2.4	・体験や行事等の準備にかかる時間を学習への指導や時間の確保に充てるなど、状況に応じた対応ができていくと思う。 ・タブレットを個々に持たせて進める授業、現在の授業形態を導入せざるを得ない教育現場、人員が少ない中の教職員の対応、子どもたちの視力減退等、健康面への影響など課題は多いと思う。
		ICT活用による校務の効率化と教育活動の質の改善に努めたか	2.2	2.3	2.2	2.3	2.3	2.3				
		指導力向上のために校内外での研修会への参加を積極的にしているか	2.3		2.3		2.2					
	学年担任制	教員との人間関係の広がりや学習の深まりによる子どもたちの成長が見られたか	2.3		2.3		2.5		2.5			
		職員チーム意識が高まり、多面的な児童理解に基づく組織的・協力的な指導が充実できたか	2.3	2.2	2.5	2.3	2.6	2.5				
働き方	校務の効率化など多忙化解消の取組と教育活動の質の改善ができたか	1.9	1.9	1.9	1.9	2.3	2.3	2.2				
育ちと学びを支える連携	家庭・地域との連携	保護者の子育てに対する支援や悩みを聞く教育相談を実施しているか	2.5		2.5		2.6		2.3	例年、子どものよりよい成長を願う共通した思いを土台として、生徒指導、いじめ対応、教育相談を実施してきた。また、保幼小中の連絡を密接に取り合い、縦のつながりを意識した課題解決やスムーズな接続ができるよう努めている。今年度は、感染症対策が可能な形での設定となり、授業参観は体育参観のみとなった。また、子ども同士が直接ふれあうような校種間交流も控えることとなった。今後も、今年度をベースとした行事設定となることから保護者の不安や相談に誠実に対応していきたい。	2.6	・交流については、コロナ禍のため、難しいところもあったが、できる方法を工夫して、つながりを大切にしていきたい。 ・接続期のカリキュラム研究については、今後の課題ととらえている。 ・幼保への出前授業は、小学校も忙しい中ではあるが、就学前児たちにとって、小学校への規律と安心感につながる機会となっている。 ・月1回の校種間連絡会を行い、しっかりと交流・連携ができていく。 ・このほりほりに参加でき、感謝している。 ・石山学区は、保幼小中の連携がいつもされているので安心できる。 ・新しい形の模索を頑張っていってほしい。
		保護者・地域との交流や情報発信、参観、懇談会を実施しているか	2.5	2.5	2.5	2.5	2.0	2.3				
		保護者(PTA)・地域と連携を取りながら、感染症対策の推進など安心・安全な学校作りを目指しているか	2.5		2.4		2.5					
	保幼小中の連携	子ども同士の校種間交流や教員の出前授業等実施できているか	2.5		2.4		2.1		2.1			
校種間の定期的な連絡会や合同研修会を実施しているか		2.6	2.5	2.6	2.5	2.2	2.1					
組織的体制の確立	生徒指導・教育相談機能の確立	石山小のあいことばを共通理解、共通実践できているか	2.7		2.6		2.7		2.8	生徒指導、いじめ対応、特別支援教育、教育相談等の担当や、管理職、養護教諭がそれぞれの立場から積極的に児童と関わり共に保護者との連携強化に努めている。今後も、関係機関やSとの連携を図りながら個に応じた丁寧な対応を心がけていく。 特別な支援を必要とする児童についても、関係機関との連携のもと支援方法などを考え、関係者で共通理解していくことに努めている。今後も引き続き、保護者との情報交換やきめ細かい支援を心がけていきたい。	2.7	・今後も引き続き連携して欲しい。ismの取組は大津市でもレベルが高いと思う。
		生徒指導、いじめ対策の組織的な対応と継続的な指導ができていくか	2.8	2.7	2.6	2.6	2.8	2.8				
		SC関係機関と連携した教育相談の充実ができていくか	2.5		2.7		2.7					
	特別支援教育の充実	保護者と連携し、個別指導計画の作成が適切になされているか	2.2		2.3		2.6		2.6			
		組織的・計画的な特別支援教育体制が確立されているか	2.5	2.4	2.3	2.3	2.5	2.6				
関係機関と連携した相談体制の充実が図られているか	2.4		2.4		2.6							
学校満足度	学校は楽しいですか		児童の学校満足度 2.5									

※評価は、「3」..よくあてはまる 「2」..あてはまる 「1」..あまりあてはまらない 「0」..あてはまらない